

## 2023(令和5)年度 三同教活動の総括

三同教は、基本的人権の尊重、自由と平等を基調とし、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決をめざし、市民自らが主体となって人権尊重のまちづくりを進めることを目的に創立しました。

今年度は感染症の流行に配慮しながら、研究大会をはじめとして各地区の活動や専門部会の活動は、予定通り実施することができました。また、LGBTQ+やインターネットに関する問題など、新たな課題にも取り組むことができました。

実施に当たっては、「With(ともに) & Open(ひらく)」を合言葉に、市民が主体的に人権課題に取り組むことができるように、支援してきました。

以下、主な活動を取り上げ総括します。

### 1 学習から人権意識を高め人権感覚を磨き人権課題を解決する力を習得する活動

#### ①研究大会では

報告者、参加者の自主的学びを推進するとともに、各分科会担当事務局が司会、報告、記録の支援をすることで、各分科会で報告をもとにした交流ができ、研究討議が深まりました。その結果、各担当の意識を強くすることができ、三同教の基盤を固めることができました。

また、特別分科会では、組織以外の方の報告をもとに、障がい者と人権について充実した討議を行うとともに、新たな組織へのアプローチを行いました。

大会として、結果的にはアンケートに示されたように、参加者の満足度が高く、充実した学びの場にすることができました。課題として、若い世代を含め幅広く参加者を増やしていく工夫や分科会の運営方法のさらなる改善などが望まれます。

さらに、東人教研究大会の地元開催を担うとともに、全人教研究大会に積極的に協力参加しました。

#### ②専門部会では

計画的に各部会で部員同士の交流を図りながら、学びを深めることができました。さらに、実践報告を活かし交流を充実させることで、今後の深い学びにつなげることが課題です。

#### ③住民学習では

コロナウイルス感染症による規制の中で培ってきた工夫が活かされ、多様な形態で学習会が行われています。また、多くの地区で「性の多様性」についての学習が活発に行われ、そこで培われた市民の人権意識の向上が4月のパートナーシップ制度導入につながりました。今後は、新たな学習形態の中で意見交流を深めるような工夫が促され、学びを深めていくことが必要になります。加えて、地域の人権リーダーの育成と活用を促すことが求められています。

#### ④じんけんフィールドワークでは

新たな人権施設を訪問しました。アンケート結果では、参加者が現地での学びに満足された様子が伺え、深い学びができました。今後も、市民のニーズに合わせた企画を行い、人権課題への関心を高めていきます。

### 2 人権研修会などをサポートする活動

① 学習支援補助や講師依頼など、多くの団体から要請を受け、効果的な支援ができました。この支援活動を周知し、各団体の人権研修の充実が望まれます。

② 啓発ラジオ放送では、市内で活動される団体や個人など、さまざまな方に出演いただきました。今後、市民の方の出演を中心に人権課題を身近なものにとらえてもらえるように企画をしていきます。

### 3 安心して暮らせる社会を目指す活動

市からの委託を受けた「インターネット差別書き込みモニタリング事業」は、差別書き込みの削除要請を行い、差別の拡散の抑止に努めました。さらに、この活動や成果を市民に発信していくことを大切にしていきます。

1年の活動を通して明らかになったことは、参加された一人一人の「人権課題の解決」への強い想いです。これは、三同教の活動の原点であり、これからも継承して新たな飛躍につなげていきます。以上、令和5(2023)年度の三同教活動の総括とします。